

鹿児島県出水野におけるツル類の基礎調査 第23報

ツル類の生息状況に関するアンケート調査（昭和63年度）

千羽 晋示^{*1}・安部 直哉^{*2}

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan. 23.

The Inquiry about the Distribution of Cranes
in western and central Japan.

Shinji Chiba^{*1} and Naoya Abe^{*2}

序

ツル類の渡来・生息状況・観察記録などについて、前3年度に引き続きアンケート調査を行った。調査結果は、前報（千羽・安部，1987，1988，1989）と同じ形式でまとめて示した。

回答をいただいた多くの方々にお礼申し上げる。

調 査 方 法

調査対象期間 1988年秋期の渡来期から翌1989年春期の渡去期まで。

調査対象地域 九州，四国，中国・近畿・中部地方と東北地方の一部とした。

アンケート調査用紙の発送先 上述の地方に在住の日本野鳥保護連盟会員，長崎県生物学会々員，そのほか鳥類研究者，観察者に対して，返信用封筒と切手を付けて調査用紙を送付した。

ただし，調査依頼者は，前年度の回答者に限った。

アンケート調査の内容 前年度と同じである。調査用紙の様式，内容は前報（千羽・安部，1989）に示した通りである。

調 査 結 果

調査用紙の回収結果と記録のまとめ方

各県別の回答者数を表1に示した。総回答者数は448名，回収率は79%であった。

^{*1} 国立科学博物館附属自然教育園，Institute for Nature Study, National Science Museum.

^{*2} 神奈川県相模原市旭町22-21，柳下荘，Asahi-cho 22-21, Sagami-hara-shi, Kanagawa-ken.

なお、表1には回答者数が示されているが、次項では出ていない県は、本調査ならびに他の情報による限り、1988—1989年期にはツル類の記録がなかった県である。記録のまとめ方と記述方法は、前報(千羽・安部, 1989)と同じで、一部の記録に編著者の「注記」を付けた。

表1 県別回答者数

秋	田	8	三	重	14	徳	島	6
山	形	1	滋	賀	5	香	川	5
福	島	7	京	都	16	愛	媛	3
新	潟	23	大	阪	26	高	知	10
富	山	6	兵	庫	33	福	岡	31
石	川	6	奈	良	8	佐	賀	5
福	井	3	和	歌	6	長	崎	35
山	梨	4	鳥	取	3	熊	本	10
長	野	28	島	根	4	大	分	9
岐	阜	17	岡	山	3	宮	崎	8
静	岡	20	広	島	19	鹿	児	5
愛	知	54	山	口	3	沖	縄	2

注. その他の県（転居による、対象地域外の県からの回答）2名。総回答者448名。

1988年秋期から1989年春季の記録

三重県

ナベヅル

- (1)1988年12月10日, 8時頃。1羽。熊野市有馬町有馬の水田跡。1989年1月18日まで、同地に生息。
- (2)1989年1月19日, 南牟婁郡御浜町志原の水田跡, 湿地に成鳥1羽が飛来。(1)と同一個体と思われる。
- (3)1989年3月21日。成鳥1羽。同上所に飛来。

島根県

マナヅル

- (1)1989年3月23日, 15時頃。成鳥1羽。簸川市斐川町沖ノ洲, 出雲空港の西300mの水田跡。

愛媛県

マナヅル

- (1)1988年12月8日。3羽。北宇和郡三間町。水田跡, 滞在は12月8日のみ。
- (2)1988年12月20日。5羽。北宇和郡三間町。
- (3)1988年12月25日。1羽。大洲市豊橋。

高知県

ナベヅル

- (1)1988年11月16日, 正午前。4羽。安芸市僧津の田園地帯に飛来。カラスに追われて去る。

(2)1988年11月19, 20日。4羽。安芸郡奈半利町の田園地帯。

注記：高知新聞ほかによれば、(1)と(2)の4羽は同じ「大家族」のようで、成鳥2羽と幼鳥2羽と推察される。

マナヅル

(1)1989年1月23日。5羽。中村市幡多地区。

福岡県

ナベヅル

(1)1988年12月4日。成鳥1羽。福岡市西区今津の湿地帯に渡来。同地域で越冬し、1989年3月初旬まで同地とその周辺に生息。

マナヅル

(1)1989年3月5日, 13時頃。成鳥3羽。福岡市西区今津。マナヅル成鳥3羽とナベヅル成鳥1羽(このナベヅル成鳥1羽は、同地で越冬したナベヅル成鳥と同一個体と推察されている)。

種不明

(1)1988年10月20日, 6時頃。1羽。京都郡苅田町下片島上空, 北から東南に。

(2)1988年10月25日, 10時30分。15羽前後。油山(福岡市)の西側を高度500mで北から南に。

長崎県

長崎県の記録は、九州本島地域と壱岐、対馬地域に分けてまとめた。

1. 九州本島地域

ナベヅル

(1)1988年11月初。8羽。東彼杵郡波佐見町から川棚町の平野部。

(2)1989年2月。7羽。諫早市小野, 長岡の水田跡。

マナヅル

(1)1989年1月16日。1羽。諫早市正久寺町の水田跡。

(2)1989年1月22日にも1羽。同所に生息。

(3)1989年2月。7羽。諫早市に小野, 長岡の水田跡。

注記：他の情報も合わせると、諫早市の上述の地域に、1988—89年の冬期にナベヅル7—11羽が越冬したようである。

渡来、渡去期の記録(種不明, あるいは種別に記録されていない例が多いので、以下にまとめて示した)

(1)1988年12月6日, 20時30分頃。4羽位。長崎市小ヶ倉町上空を北から南に。

(2)1989年2月13日, 13時15分。43羽。長崎市時津町上空。南から北に。

(3)1989年2月20日, 18時頃。マナヅル31羽。東彼杵郡川棚町岳辺田の水田跡。同年2月21日, 6時頃。川棚町中山郷の水田跡に、2月22日には波佐見町の水田跡にマナヅル(羽数不明)が舞い降りる。

(4)1989年2月27日, 11時30分頃。100羽位。野母崎上空(町立病院上空)を北へ。

(5)1989年同月同日, 14時頃。150羽。西彼杵郡大島町上空を15分間位旋回後、平戸方面に。

- (6)1989年同月同日, 13時30分頃。50羽位。北松浦郡小佐々町, 冷水岳上空を北に。
- (7)1989年 3 月 9 日, 12時50分—13時 0 分。ナベヅル, マナヅル計30—40羽。長崎市土井首町上空。
長崎半島方向から飛来して北北西に。
- (8)1989年 3 月10日, 12時20分。80羽位。長崎市弥生町上空, 東から来て北に。
- (9)1989年同月同日, 12時25分。100—150羽。長崎市伊良林。英彦山と風頭山の間まで低空で飛来し, 旋回して高度を上げて北進した。
- (10)1989年同月同日, 13時30分頃。200羽位。北松浦郡佐々町羽須和免上空。冷水岳方向に。
- (11)1989年 3 月12日, 12時30分頃。30—40羽。長崎市笹の浦, 八郎岳上空500m。北ないし北北西に。
- (12)1989年 3 月16日, 12時15—20分。ナベヅル, マナヅル計300—400羽。長崎市土井首, 毛井首, 末石町上空500m を南から北北西に。
- (13)1989年同月同日, 14時15分頃。200羽位。北松浦郡佐々町上空を北に。
- (14)1989年 3 月19日, 12時30分頃。20—30羽。長崎市八郎岳上空500m を北ないし北西に。
- (15)1989年 3 月21日, 12時20分頃。50—60羽。野母崎, 町立病院上空に飛来。さらに12時30分頃, 100羽位が飛来し, 旋回して北上。

2. 壱岐・対馬地域

- (1)1988年10月31日, 13時。50羽。下県郡峰町三根上里の上空, 北東から南西に。
- (2)1988年11月 1 日, 13時。40羽。下県郡峰町三根浜上空, 北東から南西に。
- (3)1988年11月 2 日, 12時50分。40羽。同上所の上空, 北東から南西に。
- (4)1988年11月 3 日, 15時。40羽。同上所の上空, 北東から南西に。
- (5)1988年同月同日, 16時。40羽。同上所の上空, 南西から北に。(4)と同じツルが, 天候悪化のために南下できずにいるらしい。
- (6)1988年11月 5 日, 16時45分。40羽。壱岐市芦辺町深江田原の上空を南下。
- (7)1989年 2 月27日, 15時55分—18時30分まで。マナヅル280—300羽。上県郡佐護湊の水田跡に飛来。
2 月28日, 対馬は天候悪く, 27日に飛来したツルは28日には渡去せず。さらに飛来したものと一緒になり, マナヅル, ナベヅル計500羽が佐護湊の水田跡で休息。
- (8)1989年 2 月27日, 時刻不明。200羽。壱岐市芦辺町深江田原の水田跡に到着して一泊。
2 月28日 9—10時頃(正確な時刻不明)に渡去。

注記:(8)の記録に添付されている記録写真には, 少なくともマナヅル58羽が写っている。壱岐・対馬における(1)―(14)の記録は, 既報の記録とともに重要であり, 興味深い。

- (9)1989年 3 月 3 日, 時刻不明。ナベヅル16羽とマナヅル51羽。上県郡上県町佐護湊の水田跡に到着。
3 月 6 日, 10時30分頃, 韓国に向けて渡去。
- (10)1989年 3 月 9 日, 9 時30分。約20羽。壱岐市芦辺町深江田原上空を旋回後, 北西に。このツルは前夜到着し, 一泊したものと思われる。
- (11)1989年同月同日, 18時30分—19時45分。220—230羽(マナヅルが大部分, ナベヅル約20羽)が上県郡上県町佐護湊の水田跡に到着。
- (12)1989年 3 月10日, 時刻不明。マナヅル10羽, ナベヅル 1 羽。同上所。
- (13)1989年 3 月16日, 17時45分。ナベヅル11羽。同上所に到着。

(14)1989年3月21日, 18時30分—19時頃まで。計1,000羽以上が, 6群で到着。

注記：(14)の記録のツルは, おそらく大部分がナベヅルであろう。

熊本県

ナベヅル

(1)1988年11月2日, 15時頃。34羽。本渡市本町二又地区上空, 北北東から南に。

マナヅル

(1)1988年10月31日, 8時30分。2羽。荒尾市上空を南南西に。

(2)1988年11月13日。時刻不明。1羽。八代市串蔵町上空。

(3)1988年12月1日, 午前。7羽(成鳥3羽, 幼鳥1羽, 残り3羽の幼成不明)。人吉市中神町の水田跡。すぐ, どこかに飛去。

ナベヅルおよびマナヅル

(1)1989年2月20日, 11時頃。300羽。本渡市宮地岳町八久保の上空。

(2)1989年2月21日, 10時頃。60羽。天草市河浦町上空を西に。

(3)1989年2月24日, 15時頃。13羽。同上所の上空。低空を北から南に。

注記：(3)の報告者高比良省吾氏によると, 1988—1989年の冬期には, 河浦町に越冬したツルはいない。

(4)のツルは, 北帰行に飛び立ち, 北上後に北帰を中止して, 出水に戻るものであろう。

大分県

マナヅル

(1)1989年1月22日。1羽。杵築市の水田跡。

注記：回答者南次郎氏によれば, このマナヅルは両脚を負傷し, 動けなくなっていたところを保護され, 九州アフリカライオンサファリにあずけられたが, 同年1月24日に落鳥した。

鹿児島県

クロヅル

(1)1989年1月12日, 15時。幼鳥1羽。名瀬市小宿の畑地に発見され, 翌日保護。

注記：南海日日新聞によれば, 傷ついていたこのツルは翌13日に保護され, 船便で平川動物園に送られたが, 途中で落鳥した。

結 び

本年度のアンケート調査によれば, 1988年秋期から1989年春期に, 三重, 島根, 愛媛, 高知, 福岡, 長崎, 熊本, 大分, 鹿児島県の各県でナベヅル, マナヅル, クロヅルが記録された。

これらの記録のうち, 大分県杵築市におけるマナヅル1羽と鹿児島県名瀬市におけるクロヅル1羽は負傷していて, 保護されたが, 間もなく死亡している。

福岡県西区今津でナベヅル1羽, 長崎県諫早市でナベヅル7—11羽が越冬した。

本報ならびに既報の資料から, 鹿児島県出水地方, 山口県熊毛地方に渡来, 越冬するツル類にとって, 杵岐と対馬は渡りの途中の重要な休息地, 待避地である。

文 献

- 千羽晋示・安部直哉. 1987. 鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第2報. ツル類の生息状況に関するアンケート調査(昭和60年度). 自然教育園報告, 18: 23-31.
- ・———. 1988. 同上 第7報. 同上(昭和61年度). 同上報告, 19: 31-40.
- ・———. 1989. 同上 第16報. 同上(昭和62年度). 同上報告, 20: 41-48.

1987年秋期から1988年春期の記録補遺

長崎県

1988年3月5日, 7時。ナベヅル, マナヅル計700羽位。上県郡上県町佐護湊の水田跡(前夜間に到着したのであろう)。3月5日, 8時半頃, 飛び立ち始め, 北方に渡る。